

# ゆめ わらゆ 夢 立身

菅波 茂

南海トラフによる巨大地震と津波は必ず来る。近いうちに起きる確率は相当に高いと考えている。災害発生後2週間は現地と連絡が取れない。大混乱状況になっても、「医療チームが高知県と徳島県の予定された10カ所の避難所で迅速に確実に医療活動を実施できる体制構築」が目標である。

7月9日に岡山国際交流センターで開催された第3回AMD南海トラフ災害対応プラットフォーム調整会議には70の団体、270人が参加。そのプログラムを紹介したい。

第一部は立谷秀清・福島県相馬市長による基調講演。そして海外支援ネットワークとしてAMD A韓国支部、AMD Aシ

ンガポール支部、NGO台湾ルーツ、そして台湾国際衛生行動隊が南海トラフ発生時の支援を表明した。

## 南海トラフ災害対応プラットフォーム調整会議



各地から多くの関係者が参加した第3回AMD南海トラフ災害対応プラットフォーム調整会議

避難所運営をする自治体との事前交流」が大きな特徴の一つである。単に事前準備だけではない。地震と津波による大災害の中で生き抜く被災者にとって、顔なじみの医療チームを迎える時に「見放されていない」という気持ちと新たな希望が生じる。

一方、南海トラフによる地震と津波の被害は広範囲に長期に続く。国内外の医療チームのみならず、募金・物資の支援を確保できるのか。ここが肝心である。物流は長期間ストップする。国内は混乱の極みになる。国際社会との連携が命綱となる。その最大の方法は多言語対応ホームページ上での、接点のなかった多くの善意の個人や団体とつながり、迅速にして確実な受け入れ態勢をどう構築するか勝負だ。加えて、海外支援拠点のネットワーク形成も重要である。

第二部は熊本地震から得られた教訓と「AMD A南海トラフ災害対応プラットフォーム」の進捗状況の紹介。さらに、自治体避難所と医療チーム派遣医療機関とのマッチングが発表された。輸送と通信実施報告や自衛隊飛行部隊との連携報告など。第三部は「AMD A南海トラフ災害対応プラットフォーム」の合同対策本部体制、原子力災害による被ばく対策についての発表だった。

最後に、第3回調整会議に参加した70団体のうち、医療機関、医療関連教育組織並びに研究機関を紹介したい。本当に「感謝の一言」に尽きる。この紙面を借りて改めてお礼を申し上げたい。(50音順)

- 赤穂中央病院▽岡山医療センター▽岡山旭東病院▽岡山県立大学▽岡山県看護協会▽岡山市医師会▽岡山心臓血管外科・循環器医療推進機構▽岡山大学大学院医歯薬学総合研究科▽岡山大学大学院環境生命科学研究科▽岡山・建部医療福祉専門学校▽岡山東部脳神経外科病院▽沖繩セントラル病院▽かとう内科並木通り診療所▽金田病院▽学校法人川崎学園▽キャンパス岡山▽畿央大学健康科学研究科▽倉敷成人病センター▽倉敷中央病院▽倉敷平成病院▽経絡治療学会▽航空医療研究所▽高知大学▽高知県立大学看護学部▽小倉記念病院▽さくら診療所▽しい病院▽就実大学薬学部▽諸國眞太郎クリニック▽丸亀検診クリニック▽高杉こどもクリニック▽玉野総合医療専門学校▽帝京平成大学▽東京医療専門学校▽東京大学空間情報科学研究センター▽戸田中央医科グループ▽日本総研▽福岡和白病院▽福山医療センター▽福山市医師会看護専門学校▽藤田病院▽ホウエツ病院▽御津医師会▽美波町国民健康保健美波病院▽未来工学研究所22世紀ライフエンスセンター▽明治国際医療大学。(AMD Aグループ代表)